
NOTE BOOK
CONTAINING BEST RULED PAPER

Basket Ball Coaching No 2
S 42.11. ~

梅馬場中學校

山崎純男

練習 1 = 712, 考え方はちがう = と。 (すむめ)

1. 指導者として.

- イ. エキとして、頭に描けるプレーがそのエキの生命である。勉強はつけれない。 ^{自分} ~~つ~~てみなければいけない。 それにより、プレーヤーの可能性を信ずることができ、自信をもって教えることができる。
- ロ. イに関連。 プレーヤーをよく見よ！ 得意なプレーを発見してやらせよ。 なぜそれができるのか発見する。 それがエキの勉強である。
(できる、できない 要因としては足の踏み方、目の配り方、上体の向きなど...)
- ハ. プレーを頭に描いたら、それを見せよ。生徒に要求しなけれはならない。 このとき「どういふだろう...」という指導者の容易な気持ちで、プレーヤーのプレーにその目をうつらさず。 要するに 根気くらゐである。
- ニ. 下等チームでは必ずいゝところがある。 それを見、又生徒に見せよ！
- ホ. チームの練習内容のめざ出し方。 一人の責任だけでなく、チームの成りかけ前の1日の練習の反省が翌日に出る内容であること。
(^{その日の振り返り} 鮮活性というものを私は「エキ」重要視したい。 → 年間、何回か重要である)
- ハ. だめだめだめというだけでなく、味を覚えさせなければならぬ。 どうしたら、どういふことを得られるかということ。 体験させよと。

2. 練習とは……

練習とは、習慣を スレ ことあり、習慣を 覚 ことある。
従って、途中でのため、問いただしても、生徒がいつでも答えられる
ように、しるべきものをしる。

又、仲間どうしに意識して注意して練習を繰り返す ことができる

3. 中学生という……

この時期には、うまさが身につく時期である。従って、うまさを、
即ち、ゆくりなく、からだをつかうことをうまくなること（これを、かたち
といた）しつくりやるべきである。

* 要するに、大学生に走り！と言われ、バスケを知ることから、それを足に描き
ながら走れる。しかし、中学生の走り！には、運動会の情景を足に描
け！、とあり、バスケの下足に描きながら走れるようにしてやること
がある。

4. オフェンスとディフェンス

オフェンスが勝ち、ディフェンスが負けた。… 従って、オフェンスは、"ゴール" ということを信じなければならず、ディフェンスは、それを防ぐためにゴールキーパーかという工夫が求められる。ディフェンスは、相手の目的達成のために必死でゴールキーパーを止めることである。即ち、抑えられているのはディフェンスは成功である。

(1) オフェンス

- イ. ボールをもらった状態。相手は預けているのか、抜いているのか、抜くためにどうしようか。判断がゴールキーパー
- ロ. ボールをもらっていない状態。次に自分が、ゴールキーパーをもらったら有利なのか、どうしようか判断がゴールキーパー
- ハ. ボールをもらうときに、どういふクレンジングをもらうか判断がゴールキーパー。即ち、攻撃のチャンスに…。(先手)
- ニ. イ. ロ. ハ. 総合して、オフェンスのシステムの理解
ゴールキーパーは次に何かをするか。

ゴールキーパーのシステム
ゴールキーパーのシステム
ゴールキーパーのシステム
ゴールキーパーのシステム
ゴールキーパーのシステム

5. 練習内容.

いつか、どの練習にあいても、攻めるための、守るための、有利な
かまき を与えるために 行方わけをわけばがらをい.

そのために ... ヒポボット. (軸足をどちらにした方が有利か)

ボール保持の姿勢

おらうとまのリズム.

ほやかましく、ディフェンスは、それだけに対して、それだけの、かまきと
用意が必要である。

以下の練習内容については、可能をかなり、ディフェンスをつた、行方い.

各々の場合のディフェンスのしかたをあげてさせよ。

即ち、ディフェンスの練習はディフェンスの練習である。